

## 第2回一関市教育振興基本計画検討委員会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第2回一関市教育振興基本計画検討委員会
- 2 開催日時 令和7年9月4日（木）午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 一関市役所花泉支所 201・202・203会議室
- 4 出席者
  - (1) 委員 塩竈素明委員、千葉敏之委員、菊地桂子委員、勝部孝行委員、  
齊藤耕子委員、佐々木弘克委員、千葉喜代一委員、菊地ワカ子委員、  
八巻徹委員、森英隆委員、大石敦子委員、照井教文委員、館山壮一委員、  
北村正俊委員、鈴木理香委員、鈴木宏委員、千葉真美子委員  
※欠席者 菅原正樹委員、菅原正浩委員、岩本智美委員
  - (2) 事務局 時枝直樹教育長、千葉せつ子教育次長、藤倉忠光一関図書館長、  
佐々木修路副参事兼一関市博物館次長、  
氏家克典副参事兼文化財課長兼骨寺荘園室長、  
小野寺和宏いきがづくり課長、八木浩司副参事兼学校教育課長、  
千葉真学校教育課主幹、佐藤智一学校教育係長、佐藤俊也指導主事、  
千葉邦雄教育総務課長、鈴木真実教育総務課長補佐兼教育企画係長、  
菅原光正教育総務課主査、鈴木星空教育総務課主事
- 5 内 容 ワークショップ
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 1人
- 8 審議内容  
学校教育1班、学校教育2班、社会教育・文化班の3グループに分かれてワークショップを行った。以下、意見等。  
**【学校教育1班】**
  - (1) 「1－1 確かな学力を育む教育の推進」について  
ア 評価意見
    - ・ 研修会やパンフレットの活用により、授業改善と教員の指導力向上が図られている。
    - ・ 市の教育委員会が作成した「授業改善パンフレット」は、若手からベテランまで全ての教員にとって非常に有用だ。これに基づいた授業を行うことで、より質の高い授業が実現できる。本校でも年度当初の職員会議で勉強会を実施しており、現場にとってありがたい資料である。

- ・ 昨年度、加配教員を数学の少人数指導に充てたところ、対象学年の学習定着度調査の点数が10ポイント近く向上した。
- ・ 学習指導専門員による学校訪問指導（元教員の専門員が年5回来校して若手教員の授業を参観・指導する）は、校内研究会以外で継続的に指導を受けられる貴重な機会であり、若手教員の指導力向上に大きく貢献している。

#### イ 課題認識

- ・ 今後は、子どもを主体とした学びの推進、検査結果に基づく課題分析の深化、家庭学習の習慣化が課題だ。
- ・ 今年度は数学の加配教員がいなくなったため少人数指導ができず、成績の伸びが止まってしまった。
- ・ 学力が低い層の底上げに注力しがちだが、学力が高い上位層をどう伸ばすかという視点も必要だ。
- ・ 幼稚園、小中学校、高等教育機関では求められる学力が異なるため、確かな学力がどの段階の学力を指すのか、その定義を明確にする必要がある。
- ・ 学力向上の目的がやや抽象的に感じられる。

#### ウ 提案意見

- ・ 数学に重点を置くのであれば、数学の支援員を配置するなど、市の注力分野に見える化することが効果的だ。
- ・ 勉強が得意な生徒が能力をさらに伸ばせるよう、例えば、英語検定や数学検定などの各種検定試験の取得を奨励し、それを評価する仕組みを導入してはどうか。
- ・ 地域全体の学力向上を目指すなら、高等専門学校の専門家が小中学校に出向き、数学や理科が実社会で何に使われるのかを具体的に示すことで、生徒の学習意欲を高められる。市として、そうした機関につなぐ機会を設けるべきだ。
- ・ 学ぶことの面白さを育むことが重要だ。特に理数系科目では、点数が低いから苦手だという意識で入学してくる生徒が多い。生徒が主体的に学ぶ上で、知的な面白さを感じさせ、学び続ける意欲を育む働きかけが必要ではないか。

### (2) 「1－2 豊かな心を育む教育の推進」について

#### ア 評価意見

- ・ 福祉・ボランティア教育推進事業は令和6年度に35校で実施され、児童生徒のボランティア精神や他者を思いやる心を育む成果があった。
- ・ 環境教育推進事業も令和6年度に小中学校35校で実施され、環境保全への関心と行動意欲を育む成果があった。
- ・ 学校ごとの取組はすばらしい。地域の企業と連携した「ものづくり体験」や、

J Aと協力した「農業体験」を体系的に実施し、生徒が一関の産業に触れる機会を設けている。これらの活動を通じて、地域にどのような仕事があるかを具体的に知ることができる。

#### イ 課題認識

- ・ 道德教育では、今後は「考え、議論する道德」への深化や、カリキュラム・マネジメントの充実が課題だ。
- ・ 福祉・ボランティア教育では、キャリア教育との関連付けを強め、地域から学ぶ機会として発展させることが今後の課題となる。
- ・ 環境教育は、活動の一層の推進が課題だ。

#### ウ 提案意見

一関市は広大な上に豊かな自然、産業、歴史的背景といった特色がある。市全体のアイデンティティを育むために、一関市ならではの視点をどれだけ反映できているか。一関の特色を打ち出したテーマを設定することで、郷土への誇りや愛着が深まるのではないか。

### (3) 「1－3 健やかな体を育む教育の推進」

#### ア 評価意見

本校では体力づくりの一環として、週1回の清掃時間をヘルスアップタイムとし、音楽に合わせたエクササイズを全校生徒で行っている。養護教諭が中心となり、運動しない生徒を減らすための強制的な時間だが、生徒は楽しんで参加している。

#### イ 課題認識

- ・ 子どもたちの体力低下が指摘されている。
- ・ スマートフォンやゲームによる生活リズムの乱れ、特に睡眠時間の確保は喫緊の課題だ。
- ・ 本市の肥満傾向児の出現率が全国平均より高い点が気になる。スクールバスの利用や保護者による送迎の増加で、子どもたちが歩かなくなったことも一因ではないか。これは将来の生活習慣病に直結する深刻な課題だ。
- ・ 学校で栄養教諭が生徒に指導はしているものの、保護者への働きかけが不足していると感じる。給食日より等で情報を発信しても、それが家庭で実践されているか確認が難しいのが現状だ。
- ・ 中学校の運動部活動への参加率が年々低下しており、学校によっては半数近くの生徒が運動部に所属していない。

#### ウ 提案意見

- ・ 体育の重要性を強調したい。体を動かすことは、生きる力を取り戻す上で極め

て重要だ。教育の根幹は「体・徳・知」の順であり、まず健康な体があってこそ、豊かな心や確かな学力が育まれる。

- ・ スマートフォンやゲームによる生活リズムの乱れ、特に睡眠時間の確保は、市全体で取り組むべき問題だ。
- ・ 肥満傾向の問題に対し、子どもたちの健康を守るため、もっと力を入れて対策を講じるべきではないか。
- ・ 正しい食生活は家庭の協力なしには定着しないため、保護者への働きかけが重要だ。
- ・ 部活動の地域移行が進む中で、子どもたちの運動機会をどう確保していくかは、地域全体で考えるべきだ。

#### (4) 「1－4 社会の変化に対応した教育の推進」について

##### ア 課題認識

- ・ スマートフォンや生成A I の普及は、SNSトラブルや睡眠不足の原因にもなっている。
- ・ 小中学生にとってスマートフォンは必要性が低い一方、有害情報へのアクセスや心身への悪影響といったデメリットが非常に大きいと感じる。
- ・ 日本語指導が必要な生徒は日本語ができないだけで、認知能力や学習能力に問題があるわけではないため、その点の理解が必要。

##### イ 提案意見

- ・ 今後は、生成A I をいかに正しく活用し、自ら学ぶ力を育てるかが重要になる。A I を使わないという選択肢はもはやない。
- ・ 生成A I を正しく活用するためには、その出力が正しいか判断できる基礎基本の学力と、現実世界での体験が不可欠だ。知識と体験の両輪があって初めて、A I を有効なツールとして使いこなせる。
- ・ 知識に偏重せず、幼児期からの体験活動を一層重視すべきだ。
- ・ 国によってはスマートフォンに厳しい利用規制を設けている例もある。市町村レベルでも、罰則は不要だが、子どもの発達段階に応じた利用のあり方について、一定の方向性を示す条例などを検討しても良いのではないか。
- ・ SDG s などの観点を含め、持続可能な社会の創り手の育成の観点が重要である。
- ・ 日本語指導においては、様々な選択肢を用意し、指導計画の下に体制が組めるよう環境を構築しておくことが必要ではないか。

#### (5) 「1－5 魅力ある学校づくりの推進」について

##### ア 課題認識

小学校の6年間をずっと複式学級で過ごすことは、学習面で不利益が生じる可能性がある。

#### イ 提案意見

- ・ 旧市町村の単位にこだわる必要はない。
- ・ 子どもの通学の負担や教育効果を考え、地理的に最も近い学校へ通えるようにするなど、より柔軟な学区設定を検討すべきだ。
- ・ 地域の思いも大切だが、子どもの未来を最優先に考える時期に来ている。
- ・ 集団の中で多様な人間関係を経験することは、社会性を育む上で非常に重要であり、ある程度の集団規模がなければ、そうした学びの機会は確保できない。
- ・ 小規模校であっても、年間を通じて複数の学校が合同で活動するなど、大きな集団を体験できる機会を意図的に設けることが有効だ。
- ・ 不登校や発達に課題のある生徒への個別対応に多くの人的・物的資源が投入されている現状に対し、仙台市にあるような不登校特例校を設置し、支援を集約することも考えられる。これは対象となる子どもたちにより良い環境を提供するだけでなく、各学校の負担を軽減し、教育資源の効率化にもつながる可能性がある。

#### 【学校教育2班】

##### (1) 「1－6 自立して生きる力を支援する教育の推進」について

#### ア 評価意見

- ・ フリースクール虹の学園に通っている子どもたちは、非常に元気にやりたいことに取り組んでいるように見える。
- ・ スマートフォンは工夫して使えば悪影響ばかりではない（小学6年生の息子に持たせており、システムで利用時間を制限し、閲覧内容やアプリの利用状況も全て管理している）。

#### イ 課題認識

- ・ 不登校対策として、フリースクール虹の学園への通学が学校の出席日数に算入されるが、「この先生の授業が嫌だからその日はフリースクールに行く」といった自由な利用は認められているのか。
- ・ 子どもの数が減少する一方で、支援を必要とする子どもは増えており、きめ細かな指導を行う支援員の必要性は高まっている。
- ・ ハローワークで支援員を募集しても、必ずしも適性のある方が集まらない現状がある。支援が必要な子への対応は専門性が高く、先日も採用した方が1か月も経たずに辞めてしまった。
- ・ 支援が必要な児童は年々増加していると感じるが、資料を見ると学校サポーター

の配置人数が減少している。これは充足していないということか。

- ・ 不登校対策の課題として、家庭でのスマートフォン使用に関するルール作りの啓発が挙げられているが、小学校に入ってからでは遅いと感じる。
- ・ 保護者自身もスマートフォンを手放せない現状があり、子どもたちが既にスマートフォンに慣れ親しんだ状態で小学校に入学してくる。その段階で利用をコントロールするよう指導しても、家庭で実践するのは非常に難しい。
- ・ 不登校のデータを見ると、小学校から中学校に進学する際に不登校の割合が約3倍に増加している点が気になる。
- ・ 不登校の原因が、友人関係といった外的要因から、本人の不安感や家庭環境といった内的要因へと変化しているように感じる。
- ・ 不登校の要因として最も多いのは不安・抑うつであり、その背景には生活リズムの乱れや家庭内の問題が見られる。
- ・ いじめや不登校の問題で、子ども本人だけでなく保護者も深く悩んでいるが、どこに相談すればよいか分からず孤立している保護者が少なくない。

#### ウ 提案意見

- ・ ハローワークでの公募だけでなく、教員や幼稚園教諭の経験者などを登録する人材バンクのような仕組みを作り、ミスマッチを減らす必要がある。
- ・ ゲームやスマートフォンが脳に与える影響について、もっと早い段階で保護者に伝える必要がある。
- ・ 小学校から中学校に進学する際の不登校割合増加に対し、心身ともに変化が大きい時期であり、いじめの問題とも関連するため、小学校と中学校の連携を一層強化すべきだ。
- ・ スマートフォンやゲーム以上に夢中になれるものを、親や先生が見つけてあげることがより重要ではないか。
- ・ 不登校やいじめの問題は、自殺という最悪の事態につながりかねないため、特に長期休暇明けは注意が必要だ。市として、子どもだけでなく大人も含めた命の教育や自殺予防に関する取組を計画の中に明確に位置づけるべきだ。
- ・ 相談窓口の情報をより積極的に周知し、深刻化する前に支援につなげる仕組みが必要だ。
- ・ 毎年不登校児童生徒が多数在籍する学校に、校内支援センターの役割を担う居場所の整備が必要ではないか。
- ・ キャリア教育、特に中学校の社会体験学習は、教育委員会とジョブカフェが企業の開拓や調整を担うなど、学校への支援が非常に手厚く、全国的に見ても先進的な

取組だと感じる。

(2) 「1-7 特色ある幼児教育の推進」について

ア 評価意見

- ・ 一関市が言葉を大切にする教育を推進していることは、大変素晴らしい。
- ・ 幼児期からの言葉の積重ねは非常に重要で、ことばの時間や架け橋期のカリキュラムは、思考の基礎となる言葉の語彙力不足が思考力や認知能力に影響を与えるという観点からも、極めて重要だ。
- ・ スマートフォンの機械的な音声だけでなく、人の肉声によるやりとりを通じて言葉や思考力を育むこの取組を、ぜひ継続・強化していただきたい。

イ 課題認識

- ・ ことばの時間は小学校でテキストが導入されたことを受け、幼稚園でも取り入れられたが、こども園や保育園にはまだ浸透していないのが現状だ。
- ・ 幼保小連携の実践発表会で、ある小学校の先生が「こども園に実践を見学したいと申し出たが、やっていないので断られた」という話を聞いた。
- ・ こども園や保育園は、人員不足などを理由に見学等への参加が難しいという現実もあり、今後の大きな課題だ。
- ・ 核家族化が進む中で、子育てに悩む保護者も多いと感じる。

ウ 提案意見

- ・ 良い取組を、研究指定園だけでなく、地域全体に波紋のように広げていくことの難しさと重要性を感じる。
- ・ 幼児教育推進の課題として、架け橋期のカリキュラム作成が挙げられているが、教育委員会としてどのように周知・推進していくのか。
- ・ 以前、子育て支援に関する事業所連絡協議会が作成した子育ての手引きや、校長室に貼ってあった一関家庭教育10か条のポスターは非常に良い内容だった。こうした啓発資料も活用しながら、架け橋期の連携を進められると良いのではないか。

(3) 「1-8 ことばの力を育てる教育の推進」について

ア 評価意見

- ・ 音読の宿題や週末に本を持ち帰る習慣があるため、私たちの時代よりは本を読んでいると思う。年間読書目標なども設定されており、読書が習慣化されている点は評価できる。
- ・ 一関市の図書館は蔵書数も多く、素晴らしい環境だ。
- ・ 川崎中学校区では、図書館と学校の連携がうまくいっており、読書活動が盛んである。

- ・ 地域に住む俳人が小学校で指導にあたるなど、地域人材を活用することで、子どもたちの言語活動が豊かになった事例もある。
- ・ 外国人児童への支援では、タブレットの翻訳アプリなど、限られた時間の中で効果的な教育を行う上で、使えるものはどんどん活用すべきだ。

#### イ 課題認識

- ・ 外国人児童の場合、まず言葉を理解するところから始めなければならない。何も分からない言葉が飛び交う環境に置かれる子どもたちへの支援は急務だ。
- ・ 年齢が上がるにつれて、「死ね」のような、相手を傷つける言葉を意味も分からず使ってしまう子どもが見受けられる。ゲームなどの影響も考えられる。
- ・ 中学校の社会体験学習などで生徒と接する中で、個人で話を聞くとしっかりしているが、集団になると、大人や友達との関わり方が昔と違うと感じる。コロナ禍の影響もあるかもしれないが、どこか壁を作って人と接しているような印象だ。
- ・ ある事業所の話では、「生徒の親が子どもっぽい」という話を聞いた。否定的な言葉を受けずに育ってきたためか、少し注意をされただけで、翌日親が怒鳴り込んでくるケースもあった。
- ・ 子どもが学校で一生懸命学んでも、家庭でそれが否定されてしまっただけでは意味がない。

#### ウ 提案意見

- ・ 外国人児童への支援として、翻訳機などの活用は進んでいるが、専門的なコーディネーターの配置が必要だ。
- ・ 相手を傷つける言葉を使いたくなかった時にどう言い換えればよいか、具体的な指導が必要だ。「こういう気持ちになった時は、こういう言葉を使おう」というように、言葉の置き換えを大人が丁寧に教えていく必要がある。
- ・ これは、叱り方など大人自身の言葉遣いにも通じることであり、教育の場で取り組むべき重要な課題だ。
- ・ 言葉の力を育てることは非常に重要だが、同時に、その親世代への働きかけも必要ではないか。
- ・ 一関市の図書館は蔵書数も多く素晴らしい環境にあるので、市として読書を盛り上げる仕組みを作っていくと、さらに良くなるだろう。
- ・ 読み聞かせなどを通じて、人の話を静かに聞く姿勢を育てることも非常に重要だ。
- ・ 全ての教育の基礎として、人の話を聞く態度を育てていく必要がある。
- ・ 機械も活用しつつ、最後は人と人との関わりの中で、日本語を学ぶ楽しさを伝えていくことが大切だ。

- ・ ことばのテキスト「言海」の再検討にあたっては、学校現場に負担をかけないよう行ってほしい。

## ●社会教育・文化財

### (1) 「3-1 社会教育の充実」について

#### ア 評価意見

- ・ 大東地区のふるさと祭りで中学生がジュニアリーダークラブとして出店し、地域の人々を相手に販売活動を体験していた。また、小学生は盆踊りの太鼓を任されるなど、様々な年代がそれぞれの役割を果たしていた。
- ・ 大東地区では、子どもたちが失敗しても、地域の大人たちが「こうすればいいんだよ」と温かく見守り、指導してくれる環境がある。
- ・ 大人が後始末をするから「好きにやってみろ」と言える、安心して失敗できる環境は素晴らしい。
- ・ 室根の市民センターは、まちづくり協議会と一体となって様々な取組をしており、非常に活気がある。
- ・ 室根の市民センター職員は若い人が多く、社会教育士の資格取得も積極的に進めている。
- ・ 室根では以前から、高校生ボランティアが企画運営する七夕まつりなどを実施しており、生き生きと活動している。
- ・ 室根には若者で構成されるグループがあり、そこから新しい企画が生まれている。年配者が指示するのではなく、若者がやりたいことを金銭面や運営面でサポートする体制が大事だという言葉が、室根ではまさに実践されているように感じる。
- ・ 社会教育士の研修に参加した職員が、そこで得た学びを地域に還元しようと、講師を招いて講演会を企画することもある。アイデアを持ち、行動に移す人たちがいることで、市民センターが昔のイメージから変わりつつある。

#### イ 課題認識

- ・ 社会教育は高齢者向けに偏りがちであり、若者や子育て世代のニーズにどう応えるかが課題だ。
- ・ 今は共働きが普通で、保護者がなかなか時間を確保できないことが一番の課題だ。
- ・ 未就園児がいるため、その子の預け先がなくイベントに参加できないケースも多い。
- ・ 学校統合によりスクールバス通学が主流となり、子どもたちが道草をしながら地域と関わる機会が失われつつある。
- ・ 市民センターは施設の貸出し機能はあっても、人的機能が弱いと感じていた。場

所貸しになっており、事業も趣味講座が中心で、本来の生涯学習の趣旨から少し外れている印象だ。

- ・ 地域おこし協力隊について、隊員は精力的に活動しているが、その活動内容が一般の人々にあまり認知されていないように感じる。
- ・ 住民全体に協力隊の活動内容が理解されているかという点、難しい面もある。

#### ウ 提案意見

- ・ 子どもの頃、市内の子どもたちが集まり、冒険をしながら郷土について学ぶ企画が市民センターであったのを覚えている。その時のワクワク感が良い思い出として残っており、今の時代、こうした体験が少し足りないのかもしれない。
- ・ 親から見ても、「これは面白そうだから、子どもを参加させたい」と思える、例えば、わくわく一関冒険隊のような心惹かれる企画が増えると良い。
- ・ 子どもが行きたくなり、親も安心して預けられる、そんな事業を期待する。
- ・ イベント開催時に、保育士の資格を持つ人々の協力を得て、一時預かりの体制を整えれば、参加しやすくなるのではないか。
- ・ 社会教育で大切なのは、様々な年齢層がそれぞれの持つ力（教育力）を持ち寄り、教科書にはない人との繋がりや役割、そしてドキドキ・ワクワクする体験を共有する場を作ることだと感じる。
- ・ 子どもが失敗を経験することも大切であり、失敗を成功への一歩として支えられるような地域づくりが理想だ。
- ・ 現状では各市民センターが独自に事業を計画しており、負担が大きいと思われる。市の生涯学習担当課である程度の事業メニューを作成し、例えば、青少年向け又は家庭教育向けといった選択肢を示し、その事業を実施する際には予算を手厚く配分するなど、市民センターが活動しやすくなる仕組みづくりを検討してはどうか。
- ・ 各地域の良い取組を互いに学び合う機会があれば、他の地域でも活かせるだろう。
- ・ 社会教育士の職員に、「これをやってください」と上から指示するのではなく、職員自らが「自分はこれができるので、やらせてください」と提案し、それを承認するようなボトムアップの仕組みが良い。
- ・ 社会教育士の職員のスキルアップを促すのは、住民の活動だと思う。住民が動かなければ、職員も経験を積む機会がない。住民から新しい発想や提案が出てこない限り、職員も成長しないのではないか。

#### (2) 「3-2 家庭と地域の教育力向上の推進」について

##### ア 評価意見

- ・ 働く親にとって、子どもを預かってもらえる学童保育は非常に助かる存在だ。

- ・ 子どもには色々な大人と出会い、その個性から学んでほしいという思いがある。
- ・ イベント準備に保護者を巻き込み、親が子どもの遊ぶ環境を整える姿を見せることで、「お父さん、お母さんが自分たちのために頑張ってくれている」と感じさせることができ、大切な教育になる。
- ・ 親が子どものために汗を流す姿を見せることは、非常に重要な社会教育だと思う。

#### イ 課題認識

- ・ 放課後の過ごし方について、学童保育を利用する子どもが私たちの頃より圧倒的に増え、定員超過気味だと聞いている。
- ・ 学校統合によるスクールバスでの送迎が課題だ。市民センターを会場として子どもたちを預かる場合、途中でバスを降りることはできても、帰りの迎えの時間が保護者によってばらつきがあるため、実施が難しいのが現状だ。
- ・ スタッフの確保も問題だ。何かあったら困る、という責任への懸念が強い。
- ・ 時間や日数などの負担を感じさせないような、気軽に参加できる仕組みが必要だが、現状では難しい。
- ・ スタッフが複数いれば交代制も可能だが、現状では難しい。会場の確保や送迎の問題が、日常的な活動の実施を阻む大きな要因となっていると感じる。
- ・ 学童保育の担当者から話を聞くと、本当に大変だ。学校であれば先生の一声である程度まとまるが、放課後は子どもたちが解放的な気分になり、それを一般の人が指導し、導くのは非常に労力がいる。
- ・ 怪我をさせないように見守り、宿題をさせることなどが中心にならざるを得ない。
- ・ スペースも限られている。
- ・ 昔は祖父母が家にいるのが当たり前だったが、今はそうした環境がなくなり、学童保育の需要が高まっている。
- ・ 学童保育の指導者は「今の子どもたちは大変だ」と口を揃えて言う。また、長期休暇中は午前と午後で分担しているものの、人員のやりくりが大変だとも聞いている。
- ・ 放課後子ども教室で最も子どもたちが喜んだのは川遊びだったが、今の川は必ずしも安全ではなく、事前に危険箇所の確認や草刈りといった準備が非常に大変だ。
- ・ 子どもたちは予想外の行動をとることもあり、安全な環境を整えることが大前提となる。
- ・ 以前は学校現場でもそうした体験学習を行っていたが、様々な事情で難しくなっている。協力してくれる農家の人々も高齢化しており、だんだんできなくなっている現状は非常に残念だ。

## ウ 提案意見

- ・ 学童保育に地域の高齢者がもっと関わってくれば、例えば野草について教えたり、火起こしを体験させたりといった、昔ながらの知恵を伝える場になるのではないかな。
- ・ 定員超過という課題を地域の力を借りて解決し、同時に子どもたちの生きる力を育む機会にできないか。
- ・ まず、場所の確保とスタッフの増員がなければ、ゆったりと子どもたちを見守ることは難しい。
- ・ 誠意のある指導者であれば、専門知識の有無にかかわらず、多様な人が関わって良い。
- ・ 教育委員会が細かく指導内容を指定するようになると、子どもたちや指導者を縛ることになりかねない。
- ・ 宿題をする時間以外は、安全さえ確保されていれば、子どもたちが自由に過ごせる秘密の時間のような場であっても良い。
- ・ 自由な雰囲気の中にも、守るべき一線があることを伝えられる場であるべきだ。
- ・ 指導にあたる人々が様々な場面でどう対応すべきか悩んでいると思われるので、そうした困りごとを共有し、「うちではこうしている」といった情報交換ができる学習会や研修会の機会を設ける必要がある。
- ・ 「悩んでいるのは自分だけじゃない」と安心できる場を提供することが、支援につながると思う。
- ・ 指導方法にある程度の均一化は必要かもしれないが、指導者の個性も尊重されるべきだ。
- ・ 学校のルールとは少し違う、より幅の広い地域のルールの中で、やって良いことと悪いことを学べる場になれば理想的だ。
- ・ 世の中で生きていくための力を、放課後の学びの場で身につけてほしい。
- ・ 地域行事に参加させる体験が、子どもたちの郷土への誇りを育む上で非常に重要だ。
- ・ 親にとっても、参加のハードルが下がれば、より協力しやすくなる。

### (3) 「3-3 学習環境の充実」について

#### ア 評価意見

- ・ 現在はインターネットで施設の予約状況の確認や予約ができるようになり、以前よりは利用しやすくなったのではないかな。
- ・ 地域おこし協力隊の活動が地域に受け入れられていると感じられれば、任期終了

後も定住につながる。

#### イ 課題認識

- ・ 市民センターを利用しようとした際、複数の部署を経由する必要がある、思い立ってから実際に利用できるまで3週間ほどかかった。申込みに時間がかかると、やる気が削がれてしまう。
- ・ インターネット予約システムを知っているかどうかの問題は残る。
- ・ 市役所の縦割り行政が、手続の煩雑さにつながっている面もあるかもしれない。
- ・ 地域おこし協力隊の活動内容が一般の人々にあまり認知されていないように感じる。

#### ウ 提案意見

- ・ 利用手続のハードルが下がると良いと感じる。
- ・ 手続きが2ステップほど簡略化され、即断即決できる環境になれば、利用者としては非常に助かる。
- ・ 顔を合わせる機会が増えれば、地域おこし協力隊の認知度も上がるのではないか。
- ・ 受け入れてもらうための機会がもっと増えると良い。

### (4) 「3-4 図書館運営の充実」について

#### ア 評価意見

- ・ どの図書館も基本的に子どもの利用者が多い。
- ・ 東山図書館の子ども向けの絵本は充実している。
- ・ 郷土資料も各図書館で充実している。
- ・ 室根図書館は新しい蔵書が少ない印象はあるが、リクエストすれば読みたい本を取り寄せてもらえるので、ありがたく利用している。
- ・ 毎月のお便りで新刊情報などを知らせてくれる取組には、大変感謝している。
- ・ 藤沢図書館はインターネットで検索した本を取り寄せてもらえるし、蔵書にない場合は相互貸借で借りることもできる。
- ・ 図書館の職員は非常に親切で、「この本に関する類似の資料はありませんか」といった相談にも丁寧に応じてくれる。
- ・ その場で分からなくても、後日「このような資料がありますが、いかがですか」と連絡をくれることもあり、いつも感謝している。今後もこの体制を維持していただきたい。

#### イ 課題認識

- ・ 市の財政が厳しくなり、職員配置も減らさざるを得ない状況にあるのではないか。
- ・ 室根図書館は新しい本が少ない印象がある。

- ・ 我々の世代は普通に紙の本に親しんできたが、そうではない世代も増えている。

#### ウ 提案意見

- ・ 今年には戦後80年ということで、テレビや新聞など様々なメディアで関連企画が取り上げられていたが、図書館として何かそうしたことを意識した取組はあったか。
- ・ 千厩の専門図書館で開催される古本市のような、本に親しむ機会がもっとあると良い。特に子どもたちを巻き込むことができれば、より効果的ではないか。
- ・ 電子書籍も便利だが、やはり紙媒体に触れる良さもある。こうした機会が増えることが、将来的に「こういう資料が欲しい」という要望につながるのではないか。
- ・ 新聞などで紹介されている本を読みたいと思っても、図書館で実際に手に取って選ぶ楽しみを味わうには、やはり新しい本がもっとあると魅力的に感じる。予算的に厳しいとは思いますが、新刊の充実を期待している。
- ・ 財政が厳しくても、人員を減らさないようお願いしたい。
- ・ 新しい本との出会いも大切だが、古い本との出会いも重要だ。遠野の絵本の森を訪れた際、本の見せ方が非常に工夫されており、子どもがとてもワクワクしていた。一関の図書館でも、展示方法を工夫することで、子どもから大人まで、学習の場としてもより魅力的になるのではないか。

#### (5) 「3－5 博物館等機能の充実」について

#### ア 評価意見

- ・ 小学校3年生などが昔の道具を学習するために、学校プログラムにて博物館を利用することがある。
- ・ 棟方志功展は大変素晴らしかった。

#### イ 課題認識

- ・ 市の財政が厳しくなり、職員配置も減らさざるを得ない状況にある。図書館だけでなく博物館も同様だ。
- ・ 人的体制や予算が縮小していく中で、写真資料や美術的な資料について、図書館と博物館のどちらが中心的に担うのか知りたい。
- ・ 小中学生の自由研究での利用よりも、大学生が卒業論文のテーマで利用するケースの方が多い。

#### ウ 提案意見

- ・ 博物館の職員は面白い人が多いので、その個性を活かし、やりたいことをどんどんやっていただきたい。得意分野を前面に出した企画が良い。
- ・ 市内各地で巡回展のようなものを実施してみてはどうか。
- ・ 各地区の産業文化祭などの機会に、一関の文化財を紹介するパネル展示などがあ

れば、足を運ぶきっかけになるかもしれない。

- ・ 児童生徒がもっと気軽に学芸員と話したり、実物の資料に触れたりする機会が増えると良い。思考が柔軟な若いうちに本物に接することは非常に重要だ。
- ・ 博物館として提供できる体験学習のメニューなどを検討し、「冬休みの自由研究、こんなテーマはいかがですか？」といった提案を博物館から各学校にお知らせすることは可能か。
- ・ 学校現場と博物館が連携し、素晴らしい研究事例を紹介し合うようなキャッチボールができると良い。
- ・ 素晴らしい資料がたくさんあるのだから、もっと子どもたちにその魅力を伝え、探求心を刺激する取組をお願いしたい。
- ・ 大人の自由研究発表会を博物館主催で開催してはどうか。大人が楽しんでいれば、子どもも一緒に興味を持つと思う。
- ・ 博物館との距離感を縮め、行ってみたいと思わせる魅力づくりが大切だ。
- ・ 有名な作家だけでなく、マニアックな心をくすぐるような企画も面白いと思う。
- ・ 大人は価値がないと思っている物に、子どもは強い興味関心を示す。博物館には、人間が生きてきた証がたくさんあるので、その魅力に子どもたちが気づけるような、枠にとらわれない働きかけを進めていただきたい。
- ・ NHKの教育番組は、子どもたちの興味関心をうまく引き出す視点が非常に参考になる。大人が見過ごしがちな点に光を当てる、そうした発想が博物館の企画にも活かせるのではないか。
- ・ 公募でボランティアを募り、一日学芸員のような体験企画を実施することは難しいか。
- ・ 壊れたり汚れたりしない資料であれば、どんどん子どもたちに触らせる機会を作っていたきたい。
- ・ 縄文土器のクッキー作りなど、他館の事例も参考に、体験型の企画を博物館でも実施してはどうか。
- ・ 職場体験に来た中学生が、来館者に展示物の説明ができるくらいまで学習を深めるというのも、興味や意欲を引き出す上で効果的だと思う。
- ・ 一日学芸員として、あるいは休日にボランティアとして、自分の得意な分野について来館者に説明する。そうした若い力を博物館に取り入れることで、新しい魅力が生まれるかもしれない。

(6) 「4-1 文化財の保護・地域文化の伝承」について

ア 評価意見

- ・ 文化財の調査や、説明看板の設置などは、きちんと行われていると思う。
- ・ 一関市は民俗芸能の伝承に熱心に取り組んでいると思う。
- ・ 発表の場は多いという印象がある。
- ・ 民俗芸能は、その時代や指導者によって形を変えていくところに面白さがあるとも言える。昔と違うから悪い、というわけではない。

#### イ 課題認識

- ・ 民俗資料館に収まりきれない資料を旧猿沢中学校などに保管しているが、このままでは朽ちてしまうのではないかと懸念している。
- ・ 浜横沢の調査に関する案内が届いたが、地域の状況も変化しており、どのように対応すべきか悩んだ。
- ・ 少子高齢化が進む中で、地域にある文化財をどう継承していくかという相談をよく受ける。
- ・ 担い手不足により、有形・無形の文化財や、骨寺荘園の景観などを維持していくことが困難になっている。
- ・ 大切な文化財をどう残していくかが、保存活用における最大の課題だと認識している。
- ・ 民俗芸能は、同じ演目でも地域ごとに少しずつ伝承が途絶え、担い手も少なくなっているようだ。
- ・ 昔は、暮らしと芸能が密着しており、祝い事のたびに皆で踊るのが当たり前で、ほとんどの人が踊れたものだが、今は習っている人しかできない状況になっている。
- ・ 以前は学校現場でも体験学習を行っていたが、様々な事情で難しくなっている。協力してくれる農家の人々も高齢化しており、だんだんできなくなっている現状は非常に残念だ。

#### ウ 提案意見

- ・ 民俗資料館に収まりきれない資料を活用する方法はないか。
- ・ この土地で昔使われていた道具を、子どもたちが実際に見て、触れて、体験することは、都市圏にはない貴重な学びになる。道具としての命を全うさせてあげるという意味でも、子どもたちに使ってもらう機会は作れないか。教科書だけでは学べない生きる力につながるはずだ。
- ・ 触っても良い資料は、活用について検討すべきだ。
- ・ 教科書で見ただけでは、その道具の動かし方までは分からない。実際に動かしてみること、昔の人の苦労や知恵を学ぶことができる。
- ・ 室根にも民俗資料館があるが、各地域にあった資料を集めて展示する施設を、廃

校などを活用して増設できないか。体験できる場所があれば、より学習効果が高まるだろう。

- ・ 民俗資料館に展示されている資料は、本当にお宝ばかりだ。旧川崎小学校に保管されていた日誌など、通常は捨てられてしまうような貴重な資料が残っていることを、もっと多くの人に知ってほしい。
- ・ ただ飾るだけでなく、実際に触れて、重さや匂いを感じる、五感を活用した展示方法が考えられないか。
- ・ 民俗芸能の正確な型を映像で記録し、残していくことが重要ではないか。
- ・ 笛の音を楽譜に起こすといった取組も進められているようだ。
- ・ 学校教育の中で伝承芸能に触れる機会を設けることも考えられる。
- ・ 廃校になっても、卒業生が校歌を聞けば、懐かしさから故郷を思い出すきっかけになるため、校歌の音源を残してほしい。教育委員会として取り組んでいただきたい。

#### (7) 「4-2 骨寺村荘園遺跡の保護と世界遺産拡張登録推進」

##### ア 評価意見

- ・ 現地施設にも学芸員が配置されているなど、積極的な取組がなされている。
- ・ 調査は今後も継続され、何か新しい発見があれば、その都度対応を考えていく。

##### イ 課題認識

- ・ 地域の人々が元気なうちは良いが、景観の維持を今後どれだけ続けられるかが課題だ。
- ・ 米作りをしながらの維持活動なので、米価によっては立ち行かなくなる可能性もある。
- ・ 景観を守るための農業を、どう若い世代につないでいくか、地元でも非常に悩んでいる。

##### ウ 提案意見

- ・ 平泉の世界遺産とは別の方向性として、バスツアーの企画が面白いと思った。地域に住む高齢者がガイド役となり、裏話を交えながら案内することで、より深い魅力を伝えられるのではないか。訪問者の愛着も深まるだろう。
- ・ なぜこの土地が開墾されたのか、その背景にある物語が分かれば、もっと魅力が伝わるのではないか。
- ・ 骨寺の田んぼのオーナー制度をもっと拡大できないか。現在は60~70名ほどの参加者がいると聞いているが、全国に向けてさらにアピールすべきだ。
- ・ 日常の管理は地元の人々の負担が大きいのので、水管理などを手伝ってもらえる仕

組みを作るなど、支援体制を強化していく必要があると思う。

10 担 当 課 教育委員会事務局教育総務課